

各都道府県介護保険担当課（室）

各介護保険関係団体 御中

← 厚生労働省 老健局介護保険課

介護保険最新情報

今回の内容

平成18年度介護保険事務調査の集計結果について

計10枚（本送信票除く）

Vol.2

平成18年12月19日

厚生労働省 老健局 介護保険課

【 貴都道府県内市町村及び関係諸団体に速やかに送信いただきますようよろしくお願いいたします。 】

連絡先 TEL：03-5253-1111(企画法令係・内線2164)
FAX：03-3503-2167

事 務 連 絡
平成18年12月19日

都道府県介護保険担当主管課（室）御中

厚生労働省老健局介護保険課

平成18年度介護保険事務調査の集計結果について

介護保険制度の円滑な推進について、種々ご尽力いただき厚くお礼申し上げます。

さて、平成18年度介護保険事務調査につきまして、集計作業を終了し公表資料を作成いたしましたので、管内の市町村等に対しまして、周知方よろしくお願ひ致します。

<照会先>

厚生労働省老健局介護保険課企画法令係

TEL03-5253-1111（内線）2164, 2260

平成18年度介護保険事務調査の集計結果について

調査時点：平成18年4月1日現在（一部の項目を除く）
 調査対象：全国1,843市町村（1,679保険者）
 ～ 回答率100% ～

※ 保険者数の推移

	保険者数（市町村数）	対前年増減
平成12年4月1日	2,901（3,252）	—
平成13年4月1日	2,878（3,249）	△ 23（△ 3）
平成14年4月1日	2,869（3,241）	△ 9（△ 8）
平成15年4月1日	2,759（3,213）	△ 110（△ 28）
平成16年4月1日	2,697（3,123）	△ 62（△ 90）
平成17年4月1日	2,140（2,418）	△ 557（△ 705）
平成18年4月1日	1,679（1,843）	△ 461（△ 575）

1. 保険料（65歳以上の第1号被保険者の保険料）

- 特別徴収対象者数は約2,133万人、普通徴収対象者数は約518万人（特別徴収との併徴を含む）。
- 税制改正に伴う保険料の激変緩和措置を実施している保険者数は、1,656（全体の98.6%）。
- 平成18年6月から仮徴収額を変更した保険者数は375（22.3%）、平成18年8月から仮徴収額を変更した保険者数は540（32.2%）。
- 普通徴収における保険料の収納事務を私人委託している保険者数は17。（1.0%）
- 低所得者への単独減免を実施している保険者数は555（33.1%）であり、このうち、いわゆる3原則（※）の範囲内で行っている保険者数は505（91.0%）。

※ 保険料減免の3原則

① 「個別申請により判定」

介護保険制度においては、保険料を所得に応じて原則6段階設定とすることなどにより、所得の低い方への必要な配慮を行っているところである。こうした方法以外で、更に一定の収入以下の者について、収入のみに着目して一律に減免措置を講じることは、正確な負担能力を個々具体的に判断しないまま減免を行うこととなり、不公平である。

② 「減額のみ」(全額免除は行わないこと)

介護保険は、40歳以上の国民が皆で助け合う制度であり、64歳以下の現役世代がすべて保険料を支払っている中で、一部とはいえ、高齢者が保険料をまったく支払わないということは、この助け合いの精神を否定することになる。

なお、保険料の免除ではなく、制度の枠外での現金支給についても、保険料の免除と同じ結果となる措置は、実質的に助け合いの精神を否定することには変わらない。

③ 「保険料財源」(保険料減免に対する一般財源の繰入を行わないこと)

介護保険の費用は、高齢者の保険料が原則19%、市町村の一般財源が12.5%というように、それぞれ負担割合が決められている。このうち、高齢者の保険料は、高齢者の方にも助け合いに加わっていただくために、支払っていただいているものであり、それを減免し、その分を定められた負担割合を超えて他に転嫁することは、助け合いの精神を否定することになる。したがって、低所得者へ特に配慮する場合には、高齢者の保険料で負担すべきものと定められた枠の中で、被保険者の負担能力に応じた保険料額とすることにより、対応すべきである。

(参考)

調査時点	単独減免実施保険者数 (A)	うち3原則遵守保険者数 (B)	B/A
13年4月1日現在	134	43	32.1%
14年4月1日現在	420	308	73.3%
15年4月1日現在	695	622	89.5%
16年4月1日現在	841	754	89.7%
17年4月1日現在	771	692	89.8%
18年4月1日現在	555	505	91.0%

2. 要介護認定調査

① 新規要介護認定の調査方法とその件数

	実施市町村数 (重複あり)	調査件数 (平成18年度見込み)
市町村による直接調査	1,762	1,082,455
認定調査を指定市町村事務受託法人へ委託	26	69,236
認定調査を指定居宅介護支援事業者等へ委託	633	168,260

② 更新・変更要介護認定の調査方法とその件数

	実施市町村数 (重複あり)	調査件数 (平成18年度見込み)
市町村による直接調査	1,586	1,863,304
認定調査を指定市町村事務受託法人へ委託	37	137,164
認定調査を指定居宅介護支援事業者等へ委託	1,496	2,529,875

3. 地域支援事業

① 任意事業の実施状況

・介護給付等費用適正化事業

	実施保険者数
ケアプランチェック	252
認定調査状況のチェック	135
介護給付費通知	457
住宅改修・福祉用具実態調査	161
医療情報との突合	233
国民健康保険団体連合会適正化システムを活用した事業	158

・ 家族介護支援事業

		実施保険者数
家族介護支援事業		814
認知症高齢者見守り事業		361
家族介護継続支援事業	ヘルスチェック、健康相談	130
	介護用品の支給	897
	慰労金等の贈呈	628
	交流会等の開催	521

・ その他の事業

		実施保険者数
成年後見制度利用支援事業		759
福祉用具・住宅改修支援事業		756
	理由書作成の委託・助成	677
地域自立生活支援事業	高齢者の安心な住まいの確保に資する事業	179
	介護サービスの質の向上に資する事業	193
	地域資源を活用したネットワーク形成に資する事業	222
	家庭内の事故等への対応の体制整備に資する事業	60
	高齢者の生きがいと健康づくり推進事業	278

4. 地域支援事業以外の介護給付適正化事業

	実施保険者数
ケアプランチェック	246
認定調査状況のチェック	253
介護給付費通知	404
住宅改修・福祉用具実態調査	277
医療情報との突合	434
国民健康保険団体連合会適正化システムを活用した事業	253

5. 給付

① 地域支援事業以外の保健福祉事業

実施保険者数		205
内 訳 (重複あり)	地域支援事業以外の介護予防事業	
	健康づくり教室	52
	介護予防教室	52
	介護者支援事業	
	介護者教室・相談	29
	家族リフレッシュ事業	26
	直営介護事業	20
	高額介護サービス費の貸付事業	92
	その他	47

※「その他」の中には、寝具洗濯乾燥消毒サービス等がある。

② 市町村特別給付

第1号被保険者の保険料を財源として、要介護者、要支援者に対し、市町村が条例で定めることにより行う、法律で定められた保険給付以外の独自の給付。

実施保険者数		139 (8.3%) (前年5.1%)
内 訳 (重複あり)	(紙) おむつの支給	73
	移送サービス	40
	通所入浴サービス	11
	寝具乾燥サービス	30
	配食サービス	43
	訪問理美容サービス	28
	在宅復帰支援費の支給 (一時外泊時の給付)	9
	その他	46

※「その他」の中には、緊急時の短期入所サービスに係る給付等がある。

③ 基準該当サービス

指定居宅サービス事業者の要件（法人格、人員基準、設備・運営基準）の一部を満たしていない事業者のうち、一定水準を満たすサービス提供を行う事業者について、市町村がそのサービスを保険給付の対象とするもの。

実施保険者数		294 (17.5%) (前年15.8%)
内 訳 (重複あり)	居宅介護支援	92
	訪問介護	128
	同居家族に対するヘルパー派遣	4
	訪問入浴	47
	通所介護	76
	福祉用具貸与	37
	短期入所	124
	介護予防居宅介護支援	27
	介護予防訪問介護	55
	同居家族に対するヘルパー派遣	2
	介護予防訪問入浴	26
	介護予防通所介護	46
	介護予防福祉用具貸与	25
	介護予防短期入所	62

④ 相当サービス

指定居宅サービスや基準該当居宅サービスの確保が著しく困難な離島等の地域で、市町村が必要と認める場合に、これら以外の在宅サービス（に相当するもの）を保険給付の対象とするもの。（通所介護など）

実施保険者数	18（1.1%）（前年0.8%）
--------	------------------

⑤ バウチャー

市町村が被保険者に対して事前に利用券（バウチャー）を交付し、それにより現物給付によるサービス利用を可能とするもの。（住宅改修費、福祉用具購入費等の支給など）

実施保険者数	9（0.5%）（前年0.5%）
--------	-----------------

⑥ 独自の受領委任方式

保険給付について、被保険者から個別の事業者・施設に対する受領委任を認めることにより、現物給付化するもの。

採用保険者数	428（25.5%）（前年25.0%）	
内 訳 （重複あり）	高額介護サービス費（施設）	163
	福祉用具購入	253
	住宅改修	332
	その他	22

※「その他」の中には、特例居宅介護サービス費等がある。

6. 独自の施策

① 支給限度基準額の上乗せ

厚生労働大臣が告示で定めた支給限度基準額に代えて、市町村が条例で定めることにより、その額を超える額を支給限度基準額とすること。

実施保険者数	12（0.7%）（前年0.9%）	
内 訳 （重複あり）	居宅サービス区分	6
	福祉用具購入費	0
	住宅改修費	8

② 種類支給限度基準額

居宅サービス等区分の特定のサービスが不足し、公平な利用に支障が生ずる場合に、市町村の判断で定める。対象サービスの種類ごとに居宅サービス等区分の支給限度基準額の範囲内で定められる。

実施保険者数	1（0.1%）（前年0%）
--------	---------------

7. ケアマネジャー

- 居宅介護支援事業所数は31,994事業所。所属しているケアマネジャーの人数は84,554人。

8. 利用者負担の軽減施策（実施市町村数）

障害ヘルパー利用者の軽減措置		1,512 (82.0%) (前年81.5%)
社会福祉法人による軽減措置		1,524 (82.7%) (前年76.7%)
離島等地域における減額措置		181 (9.8%) (前年11.2%)
税制改正に伴う利用料の激変緩和措置	補足給付	1,751 (95.0%)
	高額介護サービス費	1,755 (95.2%)
	社福法人利用者負担軽減	1,556 (84.4%)
市町村単独の軽減措置		395 (21.4%) (前年24.0%)

9. 事業者指導等（実施市町村数）

① 事業者指導の状況

独自に計画的事業者指導を実施	193
県の実地指導に立会い（共同指導）	373
その他	82

② 県からの権限委譲

指定権限	51
指導監督権限	49

10. 境界層措置

①給付減額等の記載を行わない②居住費（滞在費）の負担限度額の減額③食費の負担限度額の減額④高額介護サービス費の利用者負担上限額引き下げ⑤保険料段階の引き下げを行うことにより、生活保護を必要としない状態となる者について、①から⑤までの順に適用を行う措置

対象者数	3,539	
内 訳 (重複あり)	給付減額等の記載を行わない	459
	居住費（滞在費）の負担限度額の減額	2,383
	食費の負担限度額の減額	2,186
	高額介護サービス費の利用者負担上限額引き下げ	1,444
	保険料段階の引き下げ	1,553

1 1. 第三者行為求償等

① 第三者行為求償件数

給付事由が第三者の行為によって生じた場合において、その給付額を限度として被保険者が第三者に対して有する損害賠償の請求権を取得する制度

内 訳 (重複あり)	国保連に処理を委託	1, 134
	現に第三者から支払を受けている	319
	交渉中	658

② 給付免責件数

第三者行為による請求権が発生した場合において被保険者が当該第三者から賠償を受けたときに、その価額の限度において保険給付を行う責めを免れる制度

給付免責件数		67
内 訳	現に給付免責となっている	18
	交渉中	49